

コープみやざき設立50年を振り返り 今後こういう生協であり続けたい

2024年6月25日

第53回通常総代会

コープみやざきは、昨年の5月29日に設立50周年を迎えました。私たちは、くらしのねがいをかなえるために、意見や要望を出し、役職員と一緒にその実現に努めてきました。50年の間に、事業の領域は少しずつ広がり、私たちの声をもとに使い勝手の良い事業に改善も進み、事業規模342億円、県民世帯の半数を超える組合員が参加する組織へと歩みを進めることができました。

私たちを取り巻く状況は、ここ数年で、政治・経済・国際環境・紛争・新型コロナウイルス・資源や環境問題など大きく転換しており、コープみやざきにも変化をもたらし、私たちのくらしにも大きな影響を受けました。

私たちは、これまでのコープみやざきの発展に尽力されてきた多くの人々に感謝しながら、50年の成果を受け継ぎ「コープみやざき設立50年を振り返り 今後こういう生協であり続けたい」との思いを組合員と役職員で共有し、将来に向け歩んで行きたいと思えます。

1. コープみやざきが50年大切にしてきたこと

コープみやざきは、1973年、690人の消費者が集まり、自らが出資・利用・運営する生協としてスタートを切りました。1984年には、コープみやざきの活動の基本となる、私たちの声（意見や要望）をもとにした運営スタイルに変更し、事業の領域を、すべての県民の生活分野に役立つ事業に広げ活動を続けてきました。

1988年には、もっと便利な共同購入を目指して週2回配達に挑戦したものの、大きな挫折を経験しました。この失敗から、私たちの声を中心に据えた事業運営が本格的に始まり、将来にわたって組合員に役立ち続ける生協であるためには、年度ごとの堅実経営と財務体質の強化が大切であることを再確認しました。

1996年以降、コープみやざきの基本的な考え方と実践から生まれた貴重な経験の積み重ねを毎年の基本方針書に補強し、整理してきました。

2. 私たちがなっていてほしいと思う生協をめざして

(1)“協同する”ことで、あたたかな人と人のつながりを深め、くらしの中の願いを実現していきます。

- ① 核家族化が進む中で、新型コロナウイルスの蔓延が拍車をかけ、対面での経験や商品の使いこなしの交流、学び合いも減少しました。一方でSNSによっていとも簡単に情報を得たり、情報の共有もできるようになりました。このような環境の変化はありますが、それに対応しつつ、私たちは生協での関わりをとおして、くらしや立場・年齢の違いを超えてつながりを作り、くらしの知恵の交流を行ない困りごとを解決していきます。この“協同する”ことをみんなで広げていきたいと思えます。
- ② コープみやざきの組合員の年齢構成は60代以上が55%となりました。宮崎県の一人二人世帯は60%を超えています。私たちは「一人暮らしになっても、ひとりぼっちにしない」ように、生協でのつながりや事業を通して、みんなが安心して気持ちよくくらすことができるようにします。
- ③ 私たちの声が活かされることで、商品の開発・改善・品揃えに活かしてもらったり、お店の買い場や共同購入のカタログなど、一緒により良いものにしていくことができます。また、使いこなし情報を発信・案内することで学び合うこともできます。私たちと役職員が“協同する”ことで、さらに役立つ事業にしていくことができると考えます。

- ④ 私たちは「よかったよ」の声を感謝の気持ちで発信します。この声が、生産から利用された組合員さんの手に届くまでに関わったすべての人に伝われば、私たちと役職員・お取引先と“協同する”ことがさらに深められ、人にやさしく思いやりを持った関係性が作れると思います。
- ⑤ 「人に喜ばれることをすること」は、誰かの役に立ち自分の喜びにもつながります。生協での関わりを通して、自分の“居場所”が感じられるようなつながりを大切にしていきます。

(2) 私たちが本当に欲しい商品やサービスの開発・改善とくらしの工夫をすすめます。

- ① くらしの変化にかみ合った商品開発・改善・品揃えを研究し続けます。また、不可能なことも可能に変えられるまで、ねばりつよく声を出し続け、私たちのパートナーであるお取引先や関係団体に協力をいただき改善を進めていきます。
- ② 社会の変化だけでなく、時とともにくらしも変化し続けます。私たちは、生活環境や生活様式の変化に合わせて、豊かにくらししていけるように改善を進めると同時に、新しい事業の研究も進めチャレンジします。

(3) 仲間をさそい、みらいにつながる安定した事業を進めます。

- ① 県内で生活するすべての人に加入してもらいたい、一緒に事業を利用してもらいたいと思います。くらしは様々ですが、一生のどこかの場面で、何かしら役立つことがあるはずです。まだ、生協に加入していない人に声をかけ、意見や要望を出してもらいながら、今の事業を利用しやすいものに改善すると同時に、必要とされる新規事業にも取り組みます。
- ② 「改善無限・知恵無限」を合言葉に、私たちの意見や要望、役職員の知恵を持ちより、安定した事業を行えるよう真摯に努力し続けます。

(4) 社会や私たち自身の変化に対応し、みんなで成長し続けます。

- ① 人と交流することは、新たな気づきもあり自分の成長につながります。「くらしの交流会」や「自主的取り組み」等を通じてひとりの人間として成長していきたいと思えます。コープ委員会は、出会いの場であり、おしゃべりを通じて交流し学ぶ場となっています。コープ委員会のない地域は新たに立ち上げます。
- ② 生協の事業を継続し発展させるために、生協で働く職員の確保と育成が必須です。助け合いの仕組みの「よろずサービス」を含め、私たちもくらしに合わせて事業のお手伝いができるように、条件が許す範囲で“働く”という参加のあり方の研究をし続けます。同時に「日本で一番大切にしたい会社大賞」受賞の名にふさわしい組織にするためにさらに磨きをかけたいと思えます。
- ③ 「蝶を集めるには花を育てよ」という言葉があります。蝶を捕まえようと追いかけて回しても蝶は逃げていきます。蝶が集まる環境をつくるのが大事だということです。しかし蝶が集まる花は簡単には咲かず、土を耕し肥料をやり、丈夫な根と幹が育って初めて美しい花が咲きます。地道な努力が必要となります。蝶を「組合員さん」「お取引先」「職員」と考え、組合員さんやお取引先が気持ちよく集まり、職員が気持ちよくいきいきと働ける環境をつくっていきます。

私たちは、これからも設立の意思を引き継ぎ「よりよいくらしと平和」を共通理念に、民主的運営に努めます。私たちの実践が「生協のようにやろうよ！」という声となってひろがり、日本の社会のあり方に一石を投じるような「宮崎の地でキラキラと光る組織をつくる」ことに邁進していきます。